

2022年度しんくみ第1回新現役交流会

2022年度しんくみ第1回新現役交流会が、全国信用組合会館で9月7日に開催されました。

これは全国信用協同組合連合会(略称:全信組連(ぜんしんくみれん))が全国の信用組合に案内をし、釧路信用組合(北海道)、福島県商工信用組合(福島県)、群馬県信用組合(群馬県)、ぐんまみらい信用組合(群馬県)、青和信用組合(東京都)、共立信用組合(東京都)、七島信用組合(東京都)、第一勧業信用組合(東京都)、新潟縣信用組合(新潟県)、協栄信用組合(新潟県)、巻信用組合(新潟県)、信用組合広島商銀(広島県)から21社の企業が参加されて実施されました。



なお、一般社団法人新現役交流会サポート(SKS)は新現役、企業経営者、金融機関の3者対等の理念を大事にして、交流会運営をサポートしています。

当日は多くの新現役の方が参加され、午前中に11社68面談、午後には10社46面談が行われました。コロナ感染者がまだ高水準なので、3回目のZOOM面談となりました。会場に参集されるのは新現役の方のみで、企業経営者、信用組合支店長は一緒に事務所から面談に臨みました。なお、会場ではソーシャルディスタンスを確保し、空気攪拌の扇風機が準備され、面談ごとに机や椅子の殺菌が行われました。

面談はパソコンの画面越しではありますが、準備した多くの資料を共有して熱心なやり取りが会場に響きました。リアルな面談に比べて双方の空気感、熱量を直接に感じることは難しいものの、それを補うほどの熱意が伝わってくるものでした。

参加された新現役の方にお話しを伺いました。

「今年からフリーになりましたが、今までいろんな体験をしてきたのでその経験を活かしたいと思ってネットで検索して新現役に行き着きました。交流会には5回参加し、既に2社サポートしています。自分で時間の管理ができるのが魅力です。」

「59歳です。60歳以降の生活設計のために参加しています。再雇用を選択しても勤務が週3～4日になりますので、自由な時間をどう活用するか考えています。中小企業診断士資格を15年前にとっていますのでその活用を考えたり、講師も経験したり幅広く活動しています。」



「定年退職後、社会に関わる活動として新現役に登録しました。なかなか支援にまで至りませんが、仲間と情報交換しながら継続して交流会にトライしています。」

「2019年から個人事業主として活動を始め、新現役に登録しました。個人で企業のニーズを捕まえるのは難しいので、交流会は有難い存在です。今までに9社サポートしています。まだ56歳と若いので、2代目経営者ともうまくコミュニケーションできるのが強みだと思っています。支援ではデジタルとリアルをうまく組み合わせることで効果をあげていきたいです。」

「ZOOMは使い慣れているので、問題なかったです。リアルの面談はやっぱり捨て難いですが、ZOOMは移動時間をセーブでき、活動範囲が広がるのが魅力です。」

「交流会当日の進行については事前に詳細な説明書が送られてきており、運営はとてもスムーズでした。」

「面談は30分ぐらい欲しい所ですが、経営者の立場からすると多くの新現役と議論するのは疲れることだとお察しします。20分の使い方を工夫していきたいと思います。」

「面談の中で、事前の課題以外の課題が次々と出てきて面白かったです。ただ準備した資料を今日初めて見てもらうので、経営者の方は大変だと思います。またZOOMでもお互いにマスクしているので、表情がよく分からず歯がゆいです。」



熱心な面談が行われます(上)
交流会の進行を担当しています(下)

「新現役と企業経営者を金融機関が繋いでいるので、課題が明確に提示されるのが魅力です。しくみ交流会の課題は分かりやすく、私にはよく伝わってきました。やはり定性的な面を期待しています。」

「提示された課題が的確で、経営者と楽しく面談できました。私はアドバイザーの本業を持っていますが、時間ができると交流会に参加してもう4年になります。経営者との面談では企業の実態を知ることができて参考になります。専門はマーケティングですが、大いに議論しながら経営者の熱意を大事にすることを心掛けています。」

「交流会は事前に課題が提示されるので取り組みやすく、これだけの労力をかけた交流会に参加させてもらえるのは大変ありがたいです。知人にも交流会を紹介して感謝されました。」

「交流会は多くの企業経営者と会えるのが魅力です。とても勉強になります。個性が強い経営者もいらっしゃるようですが、コミュニケーションにはそんなに苦労しません。難しいことははっきり難しいと伝えるようにしています。」

午後には金融庁監督局銀行第二課協同組織金融室課長補佐、同協同組織金融室信金・信組第四係長が来訪されました。全信組連の案内で面談実施状況を視察されたあと、SKS保田代表理事と懇談されました。

文＝松崎

